



2020年3月期第2四半期 決算説明会

東京製綱株式会社
(TOKYO ROPE MFG. CO., LTD.)

2019年11月29日

1. 2020年3月期第2四半期決算 および通期見通しの概要

2. セグメント別の状況

3. 成長戦略の進捗

2020年3月期第2四半期 決算ポイント

主要事業が好調に推移したことや産業機械の大口受注により増収、経常利益は黒字確保

売上高 309億79百万円 〔前期比 +4.1%〕

首都圏再開発等によるエレベータロープ需要増、国内外の防災製品が好調に推移したことおよび産業機械の大口受注により増収

経常利益 11百万円 〔前期 △14百万円 〕

高収益製品の期間差影響(コアワイヤが前上期まで収益寄与)やリフレッシュ投資・IT投資等による償却費増あるも、増収により黒字確保

親会社株主に帰属する当期純利益 △4億91百万円 〔前期 △3億41百万円〕

投資有価証券評価損を特別損失に計上

2020年3月期第2四半期 決算ハイライト

(金額:百万円)

	2019年3月期第2四半期		2020年3月期第2四半期		前年同期比	
	金額	(売上高比)	金額	(売上高比)	金額	(増減比)
売上高	29,763		30,979		+1,216	(+4.1%)
営業利益	△80	(△0.3%)	△67	(△0.2%)	+13	—
経常利益	△14	(△0.0%)	11	(0.0%)	+25	—
親会社株主に 帰属する 当期純利益	△341	(△1.1%)	△491	(△1.6%)	△150	—

キャッシュ・フロー

営業活動：下期に向けた在庫積み増しに伴う棚卸資産の増加

投資活動：有形固定資産の取得（次ページ詳細）

財務活動：子会社増資資金受入、戦略投資のための長期借入金の増加

（金額：百万円）

	2018年9月期	2019年9月期
現金及び現金同等物の期首残高	4,352	3,308
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,125	△43
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,443	△1,073
フリー・キャッシュ・フロー	△1,318	△1,116
財務活動によるキャッシュ・フロー	391	2,866
その他（為替換算差・新規連結に伴う増減）	26	66
現金及び現金同等物の期末残高	3,451	5,124

設備投資の状況

2020年3月期第2四半期
設備投資額

1,407百万円
(前年同期比△742百万円)

鋼索鋼線土浦工場 戦略投資	3億円
CFCC関連設備(X線自動判別装置 他)	2億円
スチールコード北上工場生産性向上投資	2億円
不動産商業施設のリニューアル他	1億円
その他	6億円

2020年3月期 見通し

国内防災製品、海外防災製品、CFCCの進展により増収増益

(金額:百万円)

	2019年3月期		2020年3月期		前年同期比	
	金額	(売上高比)	金額	(売上高比)	金額	(増減比)
売上高	63,967		67,000		+3,033	(+4.7%)
営業利益	854	(1.3%)	2,000	(3.0%)	+1,146	(+134.2%)
経常利益	908	(1.4%)	2,000	(3.0%)	+1,092	(+120.3%)
親会社株主に帰属 する当期純利益	153	(0.2%)	1,500	(2.2%)	+1,347	(+880.4%)

配当方針

2020年3月期：40.0円の配当を予定

年 度	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期 予定
配 当 (年度当り)	40.0円/株	40.0円/株	40.0円/株
配当性向 (連結)	25.6%	420.4%	43.0%

安定配当を継続する

1. 2020年3月期第2四半期決算 および通期見通しの概要

2. セグメント別の状況

3. 成長戦略の進捗

セグメント別実績

	2019年3月期第2四半期		2020年3月期第2四半期		前年同期比	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
鋼索鋼線	13,908	700	14,085	643	+177	△57
スチールコード	5,525	△389	5,131	△715	△394	△326
開発製品	5,376	△846	6,593	△478	+1,217	+368
不動産	605	150	663	194	+58	+44
その他	4,348	303	4,504	288	+156	△15
合計	29,763	△80	30,979	△67	+1,216	+13

その他：石油・超硬合金・産業機械

セグメント別見通し

	2019年3月期		2020年3月期		前年同期比	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
鋼索鋼線	28,084	1,523	28,200	1,700	+116	+177
スチールコード	10,811	△ 939	10,600	△ 1,200	△211	△261
開発製品	14,482	△ 737	17,700	500	+3,218	+1,237
不動産	1,201	329	1,200	300	△1	△29
その他	9,387	678	9,300	700	△87	+22
合計	63,967	854	67,000	2,000	+3,033	+1,146

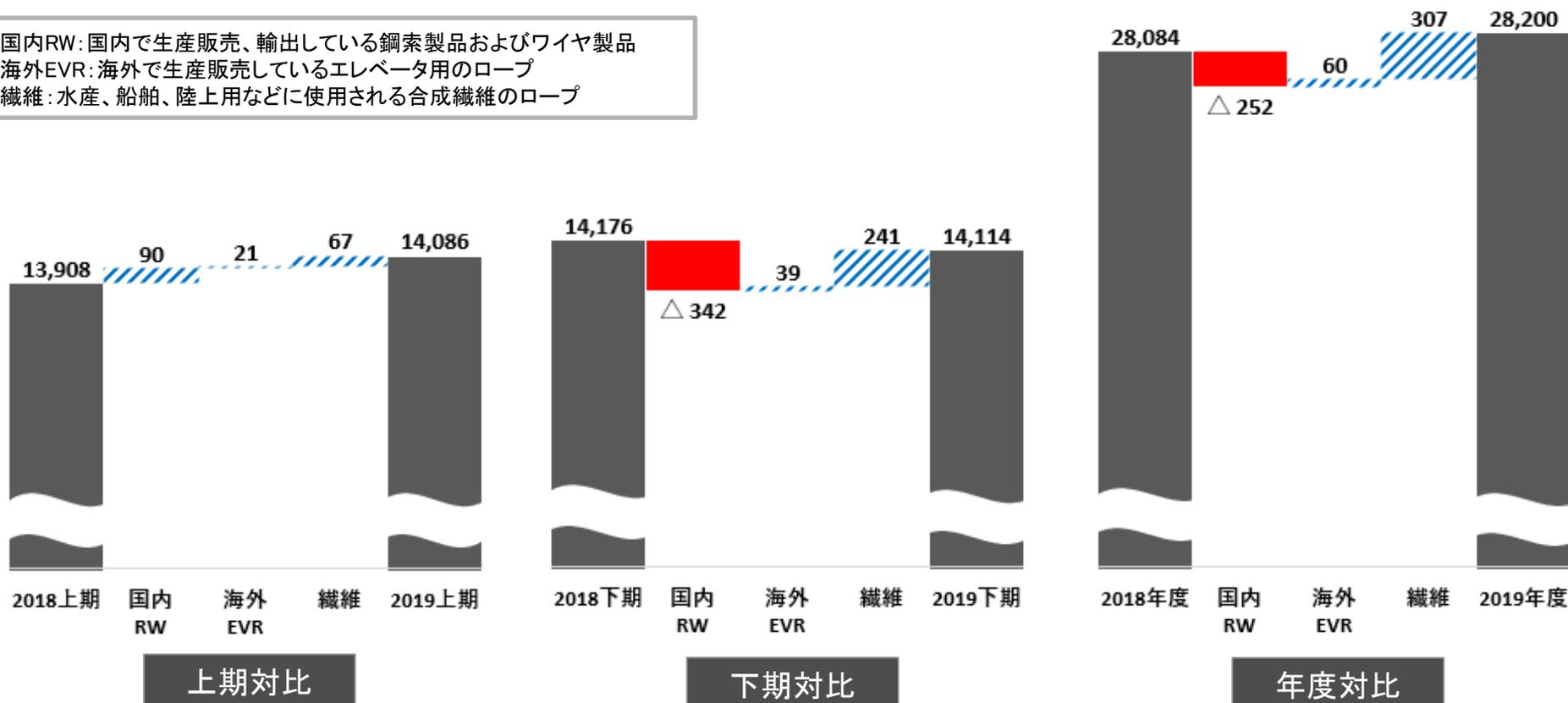
鋼索鋼線セグメント(売上高)

(単位:百万円)

上期:首都圏の高層ビル再開発等によるエレベータロープが好調に推移し増収

下期:オリンピック需要の終息による減収を見込む、繊維ロープは大口案件の受注により増収

国内RW:国内で生産販売、輸出している鋼索製品およびワイヤ製品
 海外EVR:海外で生産販売しているエレベータ用のロープ
 繊維:水産、船舶、陸上用などに使用される合成繊維のロープ

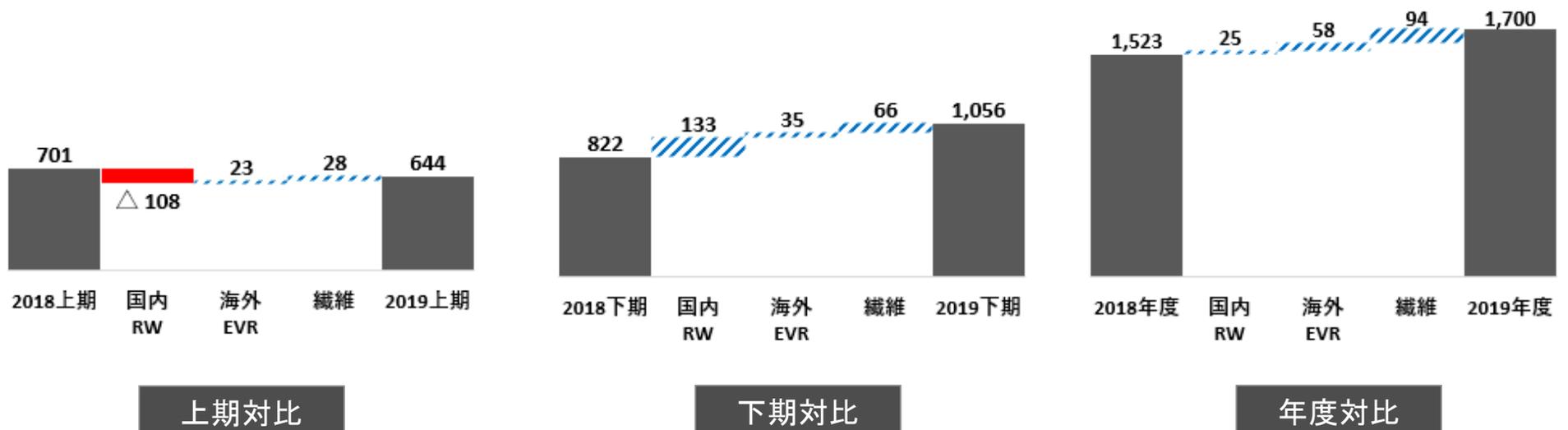


鋼索鋼線セグメント(営業利益)

(単位:百万円)

上期:国内主要工場のリフレッシュ投資・IT投資による償却費増により減益

下期:橋梁大型物件用ワイヤ製造による生産量増加に伴う生産性改善により増益



鋼索鋼線セグメント(サマリー)

(単位:百万円)

- メイン工場での設備リフレッシュ投資は上期まででほぼ完了し、大型橋梁案件でフル稼働開始
- 中国向けEVR需要は成長率が鈍化傾向にあるが、東南アジア向需要が拡大中
- 繊維ロープは水産用新商品(定置網、底引き網用ロープ)の開発が完了し、売り上げ拡大を見込む

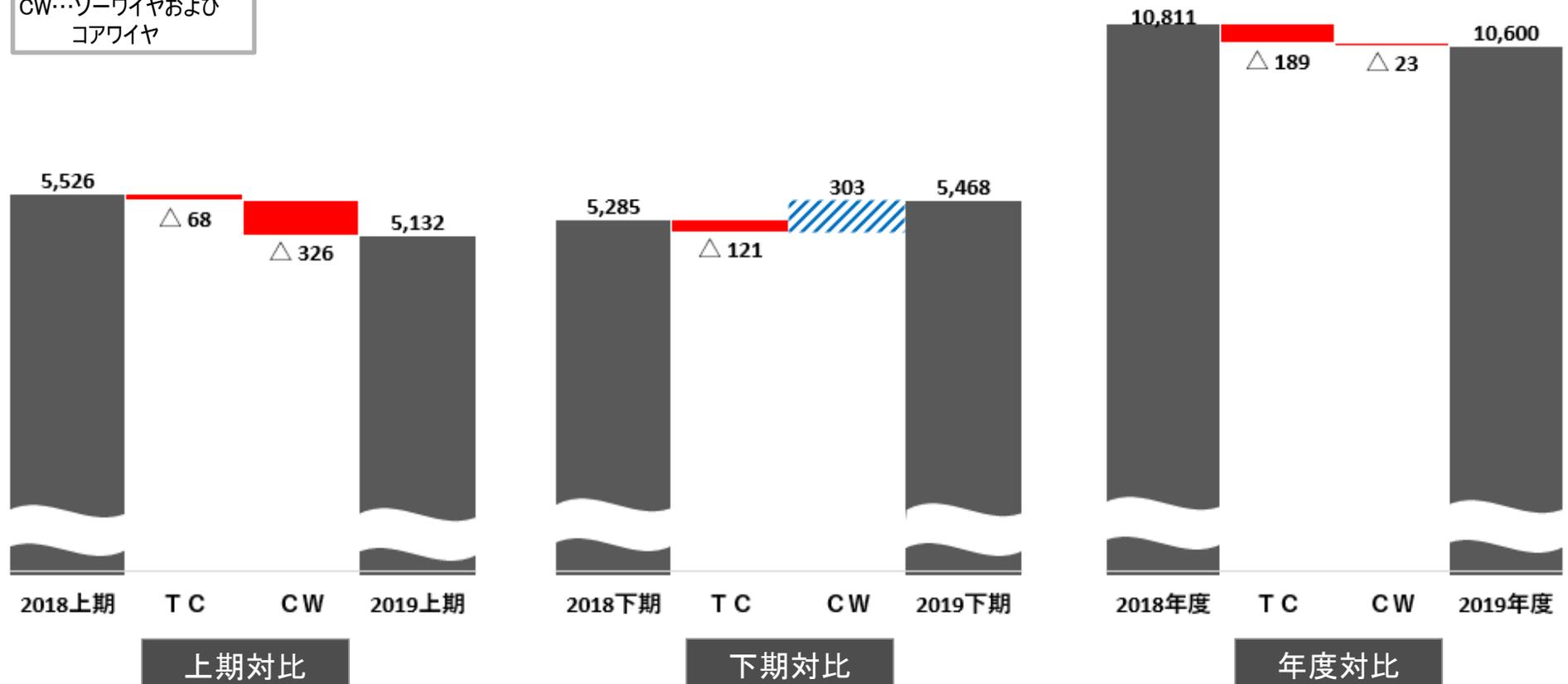
スチールコードセグメント(売上高)

(単位:百万円)

上期:コアワイヤの期間差影響(前上期までは好調)により減収

下期:コアワイヤの一定量の販売回復を見込み増収

CW…ソーワイヤおよび
コアワイヤ

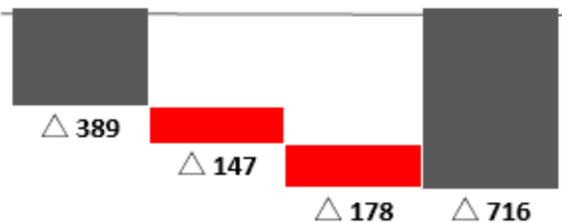


スチールコードセグメント(営業利益)

(単位:百万円)

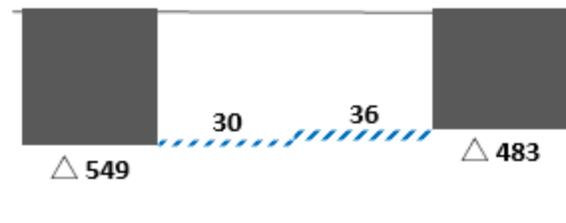
上期:前期1Qの海外子会社コアワイヤ収益の剥落が影響し減益

下期:コアワイヤの一定量の販売回復を見込み増益



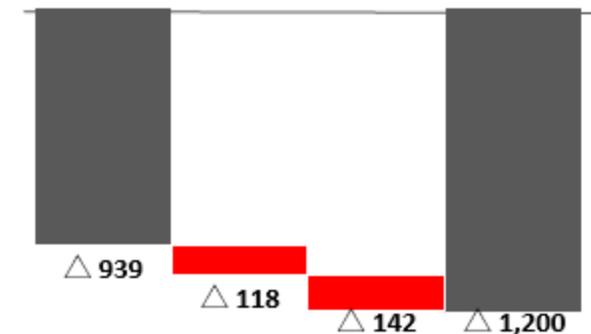
2018上期 国内 海外 2019上期

上期対比



2018下期 国内 海外 2019下期

下期対比



2018年度 国内 海外 2019年度

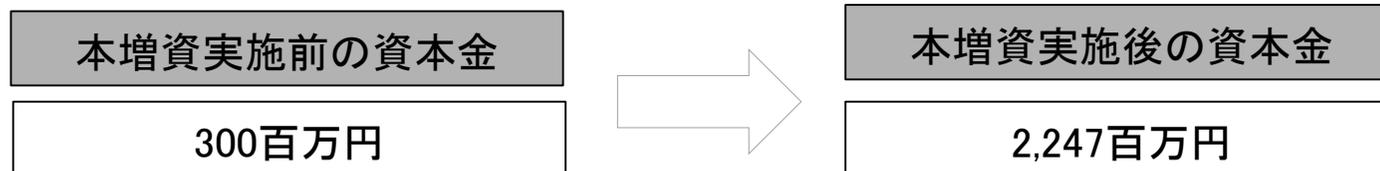
年度対比

スチールコードセグメント(トピックス)

連結子会社の合併事業化

スチールコード事業で高麗製鋼グループ会社と提携へ

- 当社グループと高麗製鋼グループはスチールコード事業において、将来的な競争力の維持・向上を目的として、『生産のデジタル化』『生産設備の自動化・無人化』を両者で推進することで合意
- 当社の高い品質管理能力および多品種同時生産のノウハウと、高麗製鋼の量産技術および量産設備開発力とを融合させることで、世界のトップグループと比肩しえる企業グループが実現
- あわせて当社スチールコード事業の抜本的収益改善を目的に、国内での生産子会社である東綱スチールコードにおいて第三者割当増資を実施し、高麗製鋼グループの出資を受け入れ
- プロジェクトチームを組成して、昨年から実行中の収益改善計画(リバイタライズプラン)を更に進化させたプラン(マスタープラン)を策定
- マスタープランは、「東綱スチールコードを最新の設備を有する世界最先端の省エネ・省人化工場とする」ことを目標とし、総額30億円をかけて設備の大幅更新を行い、**2021年度の黒字化を目指す**

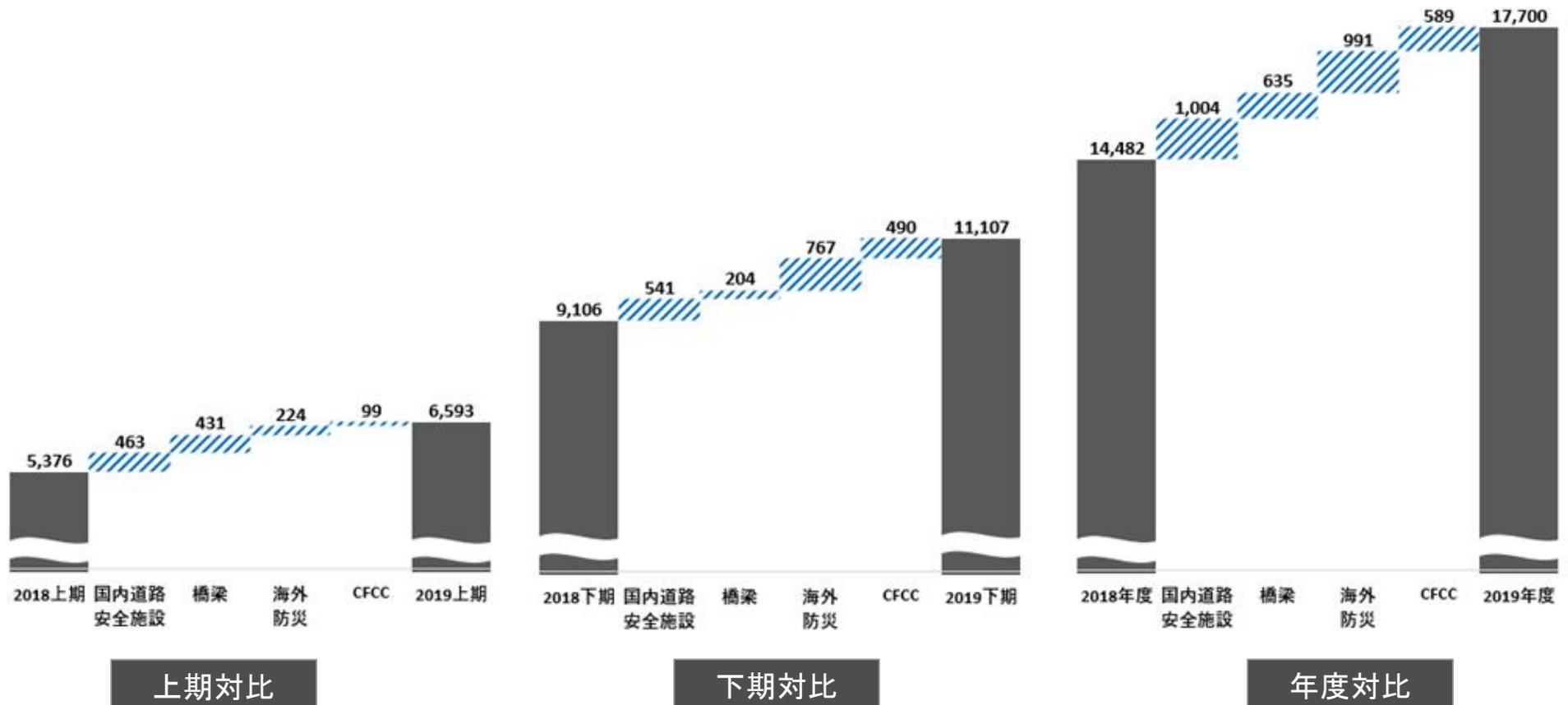


開発セグメント(売上高)

(単位:百万円)

上期:国内防災製品、国内橋梁工事が好調に推移し増収

下期:国内防災製品好調維持、CFCCおよび海外防災製品の展開加速により増収

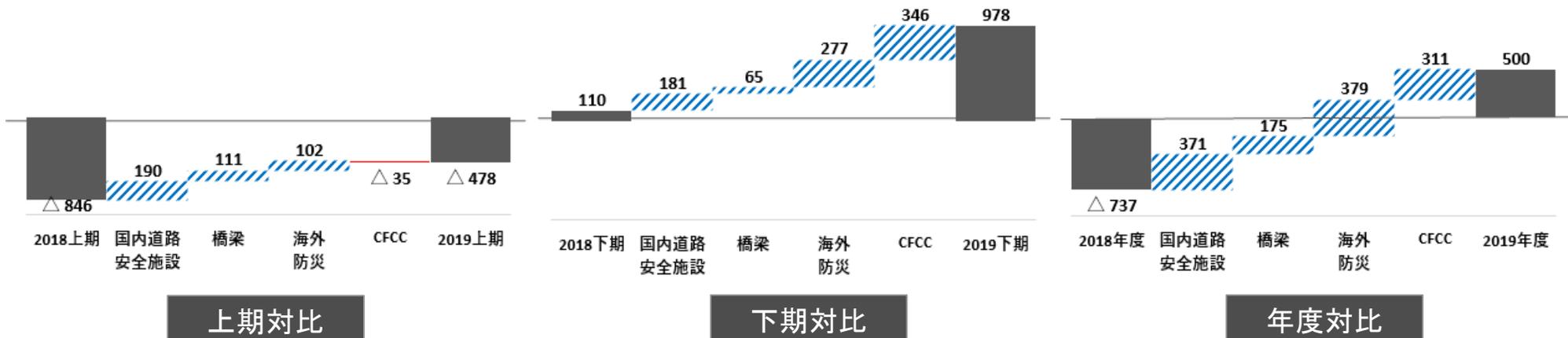


開発セグメント(営業利益)

(単位:百万円)

上期:対前期で大幅増益を達成

下期:増収による増益を計画、通期黒字化を見込む



開発セグメント(トピックス)

国内防災事業に国土強靱化の追い風

- 大型災害が頻発する中、応急復旧および恒久対策、さらに国土強靱化の追い風を受けて、受注・売上とも増加の傾向



台風19号での災害発生現場例

この現場では当社のポケット式ロックネットが大規模な落石を捕捉し2次災害の発生を防止
(山梨県)

- 併せて、増加している土砂災害対策製品にも注力

開発セグメント(トピックス)

海外大型橋梁物件の受注

ルーマニアのドナウ川に架かる大型橋梁のメインケーブルおよびハンガーケーブル等を受注

- ・ ドナウ川最下流域のルーマニア・ブレイラ市と対岸とを結ぶ橋梁
- ・ 中央径間長 1,120m、全長約 1,974.3mの大型吊橋
- ・ 完成後はルーマニア国内最長、EU域内では4番目の中央径間を有する吊橋となる

概要

- (1) 納入先：株式会社 IHI インフラシステム
- (2) 納入予定時期：2020年7月～
- (3) 受注概要：メインケーブルワイヤ 約7,000トン
ハンガーケーブル 約400トン



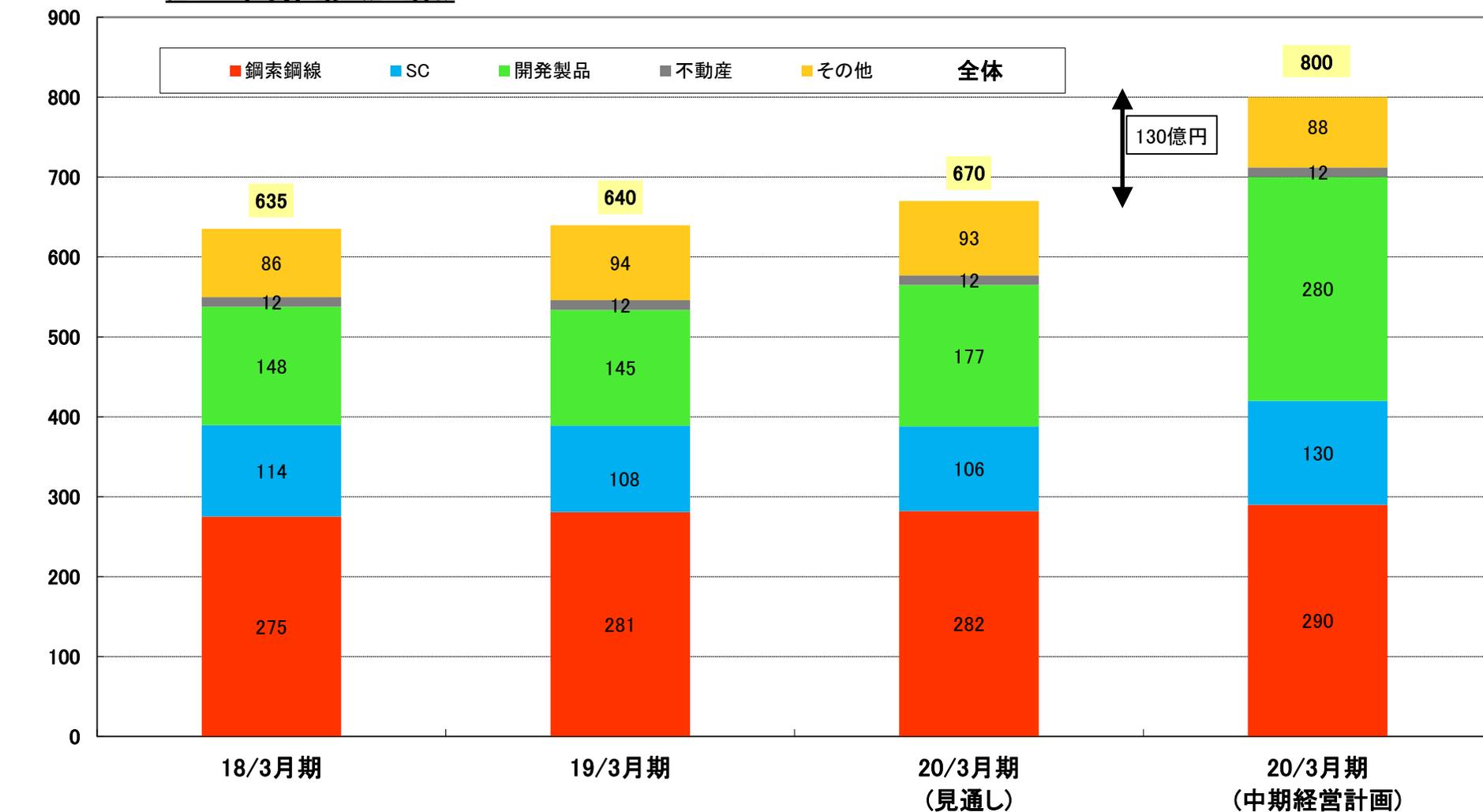
1. 2020年3月期第2四半期決算 および通期見通しの概要

2. セグメント別の状況

3. 成長戦略の進捗

中期経営計画 TCT-Focus2020目標値 と実績見通し(売上高)

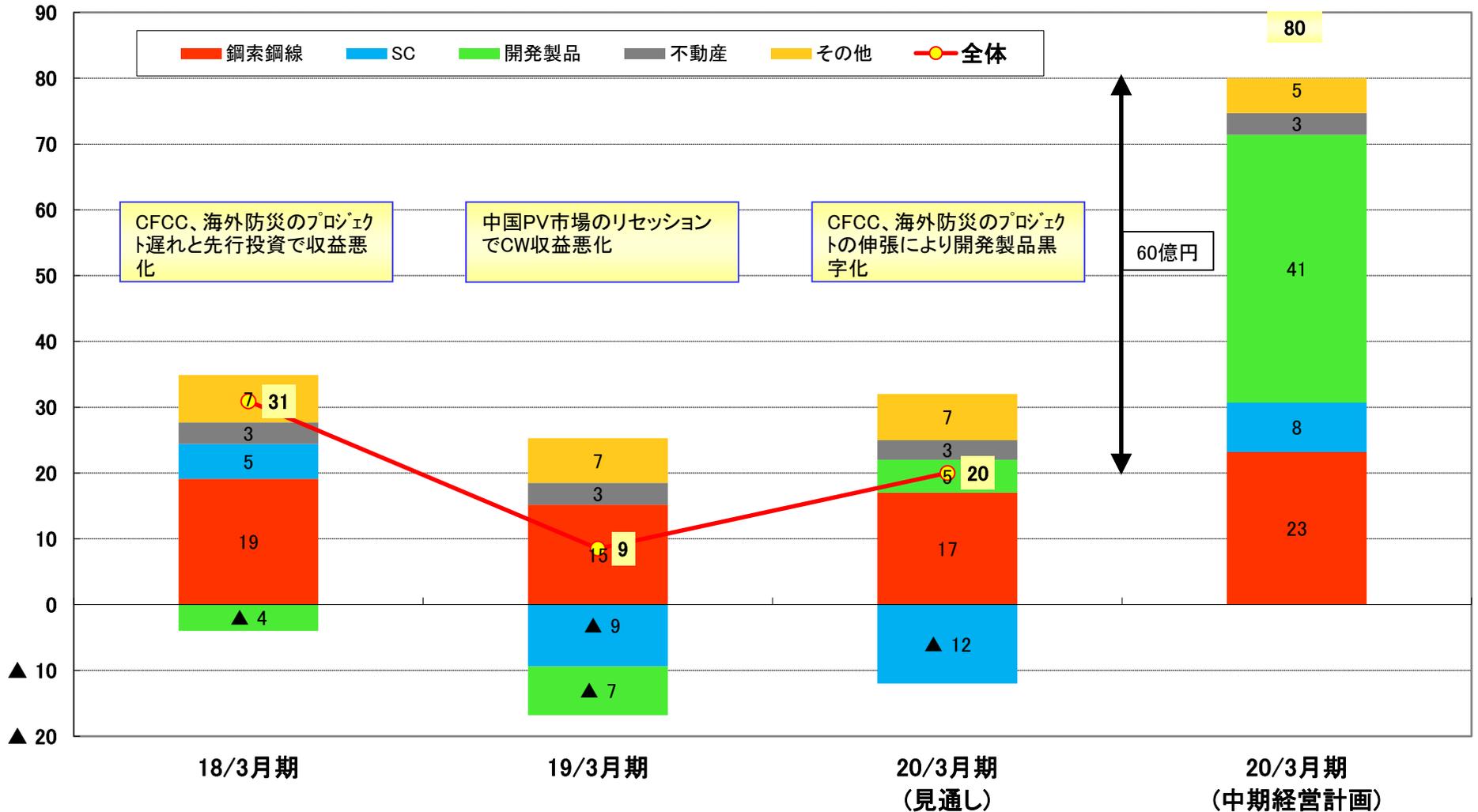
売上高推移(連結)



中期経営計画 TCT-Focus2020目標値 と実績見通し(営業利益)

(億円)

営業利益推移(連結)



成長戦略の進捗状況 1

CFCC[®] 送電線事業の海外展開

1. インドネシア

- ジャカルタプロジェクトは6月に施工を開始し、8月末に無事完工
- 難工事を無事故かつ工期前倒しで完工、CFCC送電線の施工性の良さを証明。電力会社(PLN)から高い評価を獲得
- 本実績を踏まえて次の案件受注の準備中



成長戦略の進捗状況 2

CFCC[®] 送電線事業の海外展開

2.北米

- 提携先のSouthwire社へCFCCを合計約200km納入
- 同社で送電線に加工し、全米各地の6案件に供給
- 市場への浸透を加速するためにエンジニアを北米に専属配置



サウスワイヤ社

北米の架空送電線最大手のケーブルメーカー
米国架空送電線シェア50%以上
売上高6,000億円規模

成長戦略の進捗状況 3

CFCC[®] 送電線事業の海外展開

3.ブラジル

- ミナスジェライス電力会社(CEMIG)から同州の138kV送電線案件をアルバー社とPLP社(送電線金具メーカー)連携して受注
- CFCC使用量約200km 今期納入予定



アルバー社

ブラジルの架空送電線最大手メーカー
ブラジル架空送電線シェア70%以上
売上高200億円規模

4.その他の地域

- インド:大規模市場へ初参入、今後販売規模拡大へ

成長戦略の進捗状況 4

C F C C[®]土木事業の進捗

1. 米国

大型プロジェクトを予定通り売上

橋梁用コンクリート・パイル向けの
売上を計上

①.High Rise Bridge
80百万円

②.Queen's Creek Bridge
90百万円



High Rise Bridge

成長戦略の進捗状況 5

CFCC®土木事業の進捗

1.米国

大型プロジェクトの受注活動中

Harkers Island Bridge

NCDOT(ノースカロライナ州運輸局)の橋梁掛替プロジェクト

桁・パイルの緊張材として

CFCCが指定される

(約300km使用)

2020年3月公示

4月入札予定

出典：NCDOT Project Web Siteより



成長戦略の進捗状況 6

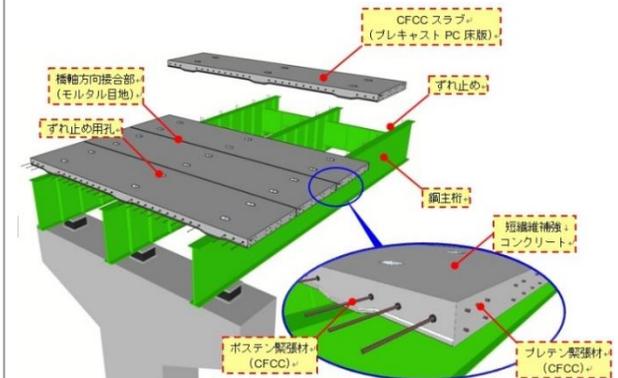
CFCC®土木事業の進捗

2.国内

- CFCCを本格使用した釧路港国際バルク港湾施設(棧橋)が国土交通省の第3回「インフラメンテナンス大賞」で優秀賞を受賞
- 釧路港・小名浜港での実績およびメンテナンスフリーが評価され、他の港湾への展開を推進中
- 上期にリリースしたプレキャストPC床版『CFCCスラブ』は採用へ向けて営業展開中、来年度には実績を作れる見込み



釧路西港地区 岸壁完成写真

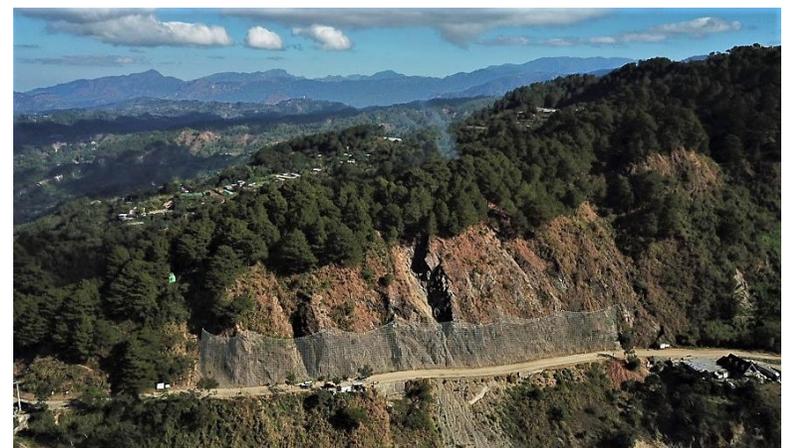


成長戦略の進捗状況 7

防災製品の海外展開

1. フィリピン

- パイロット事業成功の実績をもとにバギオ地区にて今年度発注予算分として二つのプロジェクトを受注し現在工事中(受注金額約2億円)
- 同地区には大型案件設計済で来期以降継続的に受注できる見込み
- 現地での当社製品の評価は高く、事業展開を加速するため、マニラに駐在員事務所を設立(10月)し、活動を開始

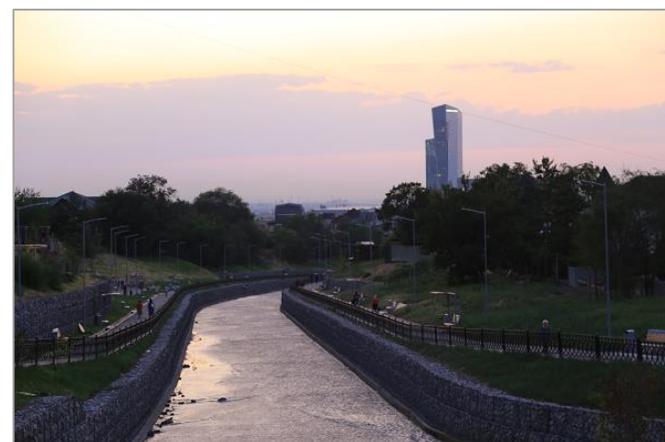


成長戦略の進捗状況 8

防災製品の海外展開

2.カザフスタン

- アルマティ市内エセンタイ川におけるRockboxによる護岸工事の既工事部分上流側での新プロジェクトの設計が国家認証され、まもなく受注できる見込
- このほか、アティラウ州ウラル川、ヌルスルタン市イシム川などカザフスタン主要都市での案件の設計が進捗中



本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

本資料に記載された予測、予想、見込みその他の将来情報は、現時点で当社が把握可能な情報および一定の前提または仮定に基づくものであり、今後、経済情勢をはじめ、当社の業績に影響を与える様々な既知または未知のリスクによって、ここに述べられている見通しと実際の結果が、大きく異なる可能性があります。